

台所

西生 ゆかり

紫陽花や一段下がる台所

冷蔵庫に貼りつばなしの登山地図

登山地図の裏にも地図が描いてある

夫は知らない鏡の裏の黴

メロン来るあまり可愛くない箱で

集金の人が網戸の前に居る

手招きの手が網戸まで伸びてくる

蠅動く人数分の水が来て

蜜豆にチェリー夜から始まる日

クリームソーダがストローを暗くする

人間は一人で話すバナナパフェ

プールサイドに番号の無い子供

水馬の治す所の無い体

吐いた日は花火がゆつくりと上がる

サングラスと名刺と立つてゐる煙草

洗ひ髪鏡の中に乾きゆく

河鹿笛まだ嫌ひではない夫

枇杷の実や住むかもしれない街

朝曇あなたのならかな額

小鳥来る黒いシールのやうな目の

柿入れて斜めになつてゐる鞆

赤子の背叩けば秋の日のリズム

鳥渡る長さの違ふ芋けんぴ

着ぶくれの吾を一瞬見る子供

理解して子供が食べてゐる海鼠

マフラーと名刺の置いてある座椅子

人参を刻む機械が濡れてゐる

くしやみして一瞬夫が遠くなる

鍋焼やもうすぐ終はる資本主義

その後の機械の温み冬銀河